

笑顔

旭野高等学校2年
加藤 大輝

子どもたちのために明るい社会を作っていくには、どうすれば良いのでしょうか。私は笑顔だと思います。次の話は、私が少し前に体験した話です。

朝から暗いニュースを聞き、少し憂鬱な朝のことでした。いつも通り電車に乗り、単語帳を眺めながら立っていると、次の駅で子連れが入ってきて、私の斜め前に座りました。その子どもは車のおもちゃを持っていて、おそらく二歳ほどの大きさだったと思います。「無邪気な子だなあ」と思いつつ見ていると、突然、隣に座っていた人のカバンの上に車のおもちゃを走らせました。その人はこわそうな顔をしたおじいさんだったので、もしかすると気分を害するのではないかとドキドキしましたが、そこにあるのはそんなものではなく、優しい笑顔でした。その後おじいさんは穏やかに微笑みながら、子どもと触れ合っていました。私は何を心配していたんだろうと思いつつ、ホッとしました。ふと周りを見渡すと、その様子を見ている人達はみんな笑顔になっていました。そして、私自身も、無意識に口角が上がっていました。憂鬱だった朝は、穏やかで優しさに包まれた朝となり、その日は空がいつもより綺麗に見えました。

私はあの場で、人のつながりを感じました。きっとほかの人も同じように穏やかな気持ちになっていたからでしょう。笑顔には、人と人のつながりを作り、穏やかで明るい気持ちにさせる力があると思います。笑顔でいっぱいになれば、この社会は今より一段と明るくなり、子どもたちにも笑顔と優しさが広がる素晴らしい光景が広がると思います。私は、そんな社会ができたらいいなと思います。

そのためには、一步踏み出してみることが大切だと思います。もしあの子どもの遊びをおじいさんが全て無視していたら、和やかな空気になることはなかったでしょう。

これは私がよく陥ってしまうのですが、「あれをしたら迷惑かな」「これをしたら余計なお世話かな」と考えると、何も出来なくなってしまいます。しかし、行動しなければ生まれる笑顔もないなと思いました。お節介だと思っても、まずは一步を踏み出してみたいです。ほかにも、日常に少し余裕を持つてみることも良いと思います。あの時におじいさんが気分を害さないか不安になったのは、きっと私に余裕がなかったからです。もしおじいさんも余裕がなかったら、本当にそうになっていたかもしれません。誰もがそんな状態では、明るい社会とは程遠くなってしまいうでしょう。また、優しさの分け合いをすることも大切だと思います。人から親切にしてもらおうと、自分も親切ができるくらい余裕が生まれると思います。なので、誰かから優しさを受け取ったら、それを別の人に分けるようにすると、無限に笑顔が広がっていくのではないのでしょうか。

現代は、SNSが発達して、悪いニュースがよく耳に入ったり、孤独感を感じやすく、何かと暗い気持ちになりやすいです。だからこそ、優しさと笑顔であふれている環境はよりいっそう素敵だと思います。そうして地域でつながりが生まれれば、子どもたちにも笑顔が絶えない明るい社会が実現するでしょう。私は、そんな社会を目指したいです。